

厚生環境委員会委員協議会記録

1 会議の日時	令和 6年 8月22日	開 会 午後 0時 56分 閉 会 午後 2時 45分
2 会議の場所	第3委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 布俣 正也 副委員長 所 竜也 平岩 正光 松岡 正人 長屋 光征 伊藤 英生 澄川 寿之 今井 瑠々
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	係長 遠藤 俊輔 主査 杉山 俊之	

5 会議に付した案件		
件	名	審 査 の 結 果
1	岐阜県野生動物管理推進センターの取組について	
2	県内におけるツキノワグマ被害の現状と対策について	

## 6 議事録(要点筆記)

### ○布俣正也委員長

ただいまから、厚生環境委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催したものであり、議題は、配付した次第のとおりである。

執行部の出席者については、本日の議題を所管する部局が中心となっているのであらかじめ了承願う。

それでは、議題1「岐阜県野生動物管理推進センターの取組について」であるが、参考人として、国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学応用生物学部特任助教の鈴木嵩彬様と森智基様に報告願う。

(参考人報告)

### ○布俣正也委員長

ただいまの報告に対して、質問等はないか。

### ○澄川寿之委員

岐阜県野生動物広域カメラモニタリングは、2025年12月まで実施するとのことだが、それ以降も延長して実施する必要性はあるのか。

### ○鈴木参考人

カメラモニタリングは野生動物管理の基盤となるデータであり、一度途切れると、例えば、山の生物が突然姿を現さなくなった時に検証ができなくなる。また、将来的には当該データから生息密度等を算出することができるようになると思っており、この調査はできるだけ継続したいと考えている。

### ○長屋光征委員

県内のシカの頭数が非常に多いことから、生息数調査が大切であることは理解しているが、頭数は増える一方かと思う。シカの増加を抑えるために、現時点で有効な対策は何か。

### ○森参考人

シカは雪に弱く、昔は大雪により大量死していたが、近年は降雪が少なく、それが、シカが増加している一因と考える。

また、島等の閉鎖的な空間であれば、食料不足で自滅するが、そうでない空間の場合はなかなか自滅しないため、常に捕獲圧をかけ、減少させることが重要と考える。

### ○所竜也副委員長

温暖化で越冬するシカ、イノシシ等が増えてきており、個体数調整として捕獲を推進しているが、伊吹山は捕獲従事者がいない地域のため、捕獲が進まない。

また、わなの見回りが大きな負担となっているため、捕獲従事者が労力をかけずに捕獲活動ができるよう、DXを踏まえた捕獲技術の研究を県と大学にお願いしたい。

### ○森参考人

狩猟者の高齢化が進んでいる中、数多くのわなを仕掛けて、捕獲圧を高めることが難しくなってくると思われる。そうになると、省力的に捕獲するシステムの開発は必要となることから、産官学の連携で進めていければと考える。

○岩本農村振興課長

揖斐川町春日笹又地域では、モデル地区としてICTを使った大型檻を導入し、見回りの負担を解消する実証を進めている。捕獲従事者が不在の問題については、地域の方に「わな猟免許」を取得いただく取組も進めており、これらを含めて捕獲の仕組みづくりを検討していきたい。

○所竜也副委員長

今年は、揖斐郡のJA役員など20名ほどが狩猟免許を取得し、団体として捕獲に取り組んでいただけのことになった。また、捕獲報償費の受け取りが職員の副業にならないようJAの規定で配慮してもらい、免許取得経費の一部もJAが負担している。

このような取組により様々な分野で捕獲従事者を増やすとともに、捕獲しやすい新たな技術を県及び大学で研究し、広めてほしい。

○長屋光征委員

野生動物の捕獲は重要だが、一方で、保護が必要との声は届いているか。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

県には保護が必要との声は届いていない。クマに関しては、近年出没が増え、本年4月に指定管理鳥獣に指定されたが、指定種のシカ、イノシシに比べ生息数が少ないことから、個体数の維持と被害削減の両方を考える必要がある。

○長屋光征委員

野生動物からの被害を抑制するためには捕獲が必要だが、一方で絶滅させてもいけない。野生動物管理、捕獲の必要性については、子供、一般の方に理解してもらった仕組みづくりも重要であるため、教育委員会や他部局とも連携して進めてほしい。

○布俣正也委員長

岐阜県野生動物広域カメラモニタリングはドローンも使用して調査しているのか。

○鈴木参考人

ドローンでは森林の下部にいる動物が把握できないなど、当調査には不向きな点があるため、使用していない。

○布俣正也委員長

質問等も尽きたようなので、議題1を終わる。

(参考人 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学応用生物学部 特任助教 鈴木嵩彬氏、森智基氏 退出)

○布俣正也委員長

続いて、議題2「県内におけるツキノワグマ被害の現状と対策について」、執行部の説明を求める。

(執行部説明：江崎環境生活政策課生物多様性企画監)

○布俣正也委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○所竜也副委員長

クマの狩猟・被害防止捕獲数には、錯誤捕獲(意図しない鳥獣の捕獲)も含まれるのか。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

他の鳥獣を捕獲するために設置したわなでクマを捕獲した場合も含めている。

○長屋光征委員

年間の捕獲上限数を370頭と設定しているが、毎年それだけ捕獲しているのか。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

実際の捕獲数は毎年変動があり、出没の多い年は捕獲数が多くなる傾向にある。

○長屋光征委員

資料には捕獲実績数の記載がなく、捕獲目標数のみでは目標の達成状況が分からないため、後日、毎年の捕獲数分かる資料を提供いただきたい。

何年かに一度大量出没しているが、その要因は把握しているか。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

堅果類（ドングリなど）の凶作の年に出没件数が多い傾向にあるが、堅果類が凶作でも出没件数が少ない年もあり、堅果類の凶作だけが大量出没の要因とはいえない状況にある。

○所竜也副委員長

基本的にクマはわなではなく銃での捕獲となるが、犯罪防止対策のため、警察による銃所持の許可が厳しくなっている。これにより、クマを捕獲する人材が減ってしまう可能性があるため、警察と連携して取り組んでほしい。

○吉川環境生活政策課長

警察とは市街地にクマが出没した場合の対応研修を行うなど連携している。また、市街地での銃の使用やクマ捕獲用の大型檻の運用なども、今後、警察と連携しながら検討していきたい。

○所竜也副委員長

クマ猟においてわなを用いることは法令上禁止されているが、箱わなが使用できるように検討してほしい。また、他県ではクマの駆除に対する報酬が低いことが課題と聞くので、県としての支援を検討してほしい。

○澄川寿之委員

クマの推定個体数の推移は若干増加傾向であるが、これまでの捕獲数は何頭か。また、個体数を安定して維持できるようにすることとしているが、維持するための具体的頭数は何頭に設定しているか。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

クマの捕獲数は、令和元年度は490頭、その後は徐々に減り、令和4年度は165頭、令和5年度は集計中である。なお、平成26年度から平成30年度の期間においても毎年150頭から400頭程度である。

また、目標個体数は具体的な頭数は設定せず、安定して生息できる頭数を維持することとしている。

○松岡正人委員

岐阜県では人とクマの居住地のすみ分けが重要になると思う。カメラトラップ調査結果の市町村への共有や、県ガイドラインの作成など、県が主導して今後の取組を進めてほしい。

○吉川環境生活政策課長

本年10月に市町村職員向けの研修会を開催し、飛騨市で実施したカメラトラップ調査の成果を、市町村へ情報提供する予定。市町村職員と意見交換を行いながら、マニュアルの改定や次年度に向けた対策を検討していきたい。

○松岡正人委員

すみ分けした境界へのわなの設置を検討し、人的被害が出ないようにしてほしい。

○布俣正也委員長

堅果類が少なくなっている中、クマが里山に下りてくる状況は止められず、バッファゾーン（緩衝地帯）の効果も限定的である。環境省は本年4月にクマ対策パッケージによるクマの個体数、生息分布等の調査・モニタリングを実施する自治体への支援等を行う旨を公表したところだが、来年度に向けて県として強化していく対策は何か。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

すみ分けを効果的に進めるために、カメラトラップ調査と組み合わせて、クマの生息状況調査を行いたいと考えている。また、バッファゾーンの整備、誘引物の除去を進めていきたい。

○吉川環境生活政策課長

クマ対策は、誘引物になる放任果樹の除去、被害防止捕獲のための集落付近へのわなの設置など、地域住民の理解がないと進めることができないのが一番の課題である。本年10月に開催予定の研修会で市町村職員と意見交換しながら、地域住民の理解に繋がるような普及啓発に力を入れていきたい。

○布俣正也委員長

飛騨市では、放任果樹ではなく、果樹園にクマが留まることで人身被害が抑制されているのが現状で、果樹園は経済的な損失が生じていることを知っていただきたい。

○渡辺環境生活部長

クマについては、捕獲、個体数の維持、人的被害、農作物被害など様々な問題があるため、今回のご意見を踏まえながら、農政部、林政部、警察本部と引き続き連携して対策をしていきたい。

○布俣正也委員長

質疑も尽きたようなので、議題2を終わる。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何か意見等はないか。また、執行部の方、何かないか。

（発言する者なし）

○布俣正也委員長

意見もないようなので、これをもって本日の委員協議会を閉会する。

厚生環境委員会委員協議会配席図

令和6年8月22日

第3委員会室

